

■コメント

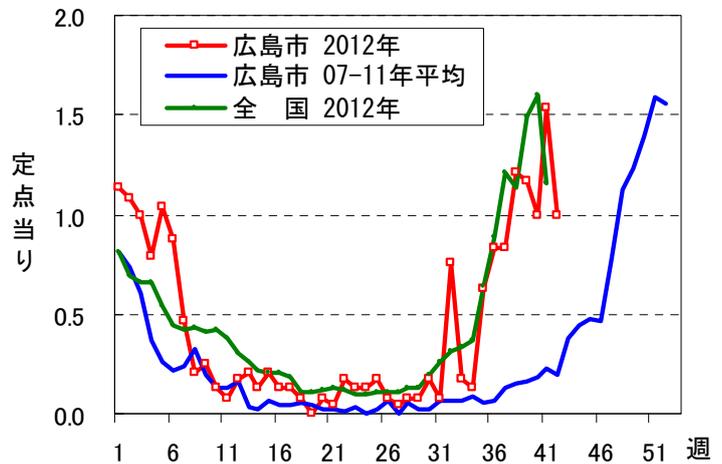
1. RSウイルス感染症

24人(定点当り1.00人)報告されており、先週より減少しましたが、依然、全国的にも例年同時期と比べて多い状態が続いています。例年流行のピークは年末であるため、引き続き今後の動向に注意が必要です。

また、RSウイルス感染症は感染力が強く、特に乳幼児の場合は重症化するおそれがあるため、ぜんそくのような激しいせきや、息をする時にゼーゼーという苦しそうな音がある場合は、速やかに医療機関を受診して治療を受けましょう。

一日の寒暖の差が大きい季節となりました。体調管理に気をつけるとともに、手洗い・うがいの励行など感染予防対策を徹底しましょう。

RSウイルス感染症 2012年 第42週現在



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

疾患名	報告数	定点当り	平過均去5年間(注)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平過均去5年間(注)	発生記号
インフルエンザ	-	-	2.26		ヘルパンギーナ	2	0.08	0.08	
咽頭結膜熱	1	0.04	0.13		流行性耳下腺炎	7	0.29	0.52	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	18	0.75	0.74	↗	RSウイルス感染症	24	1.00	0.20	↘
感染性胃腸炎	93	3.88	3.67	↗	急性出血性結膜炎	-	-	-	
水痘	16	0.67	0.71	↗	流行性角結膜炎	1	0.13	0.30	
手足口病	1	0.04	0.55		細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
伝染性紅斑	-	-	0.13		無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
突発性発しん	10	0.42	0.49		マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.31	
百日咳	7	0.29	0.21		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減

微増減 ↖ ↕ 前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減

横ばい ⇨ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当り)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	235	女性(30歳代)・1人、女性(40歳代)・1人、男性(50歳代)・1人、男性(80歳代)・1人
5	アメーバ赤痢	1	7	男性(40歳代)
5	梅毒	1	6	男性(60歳代)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	第38週 第39週 第40週 第41週 第42週	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
			0.09	0.20	1.01	3.16	0.46	0.86	0.05	0.59	0.02	0.37	0.38	1.60	0.02	0.63	0.01	0.08	1.26	0.03
報告数	広島市	第38週 第39週 第40週 第41週 第42週	-	1	11	80	10	5	2	6	3	8	2	29	1	5	-	3	2	-
			-	2	20	89	15	3	-	18	-	5	9	28	-	2	-	1	5	-
			-	2	16	86	10	1	4	22	7	4	6	24	-	-	-	1	3	-
			-	7	14	88	11	-	-	10	2	3	5	37	1	6	1	-	2	-
			-	1	18	93	16	1	-	10	7	2	7	24	-	1	-	-	2	-
定点当り	広島市	第38週 第39週 第40週 第41週 第42週	-	0.04	0.46	3.33	0.42	0.21	0.08	0.25	0.13	0.33	0.08	1.21	0.13	0.63	-	0.43	0.29	-
			-	0.08	0.83	3.71	0.63	0.13	-	0.75	-	0.21	0.38	1.17	-	0.25	-	0.14	0.71	-
			-	0.08	0.67	3.58	0.42	0.04	0.17	0.92	0.29	0.17	0.25	1.00	-	-	-	0.14	0.43	-
			-	0.29	0.58	3.67	0.46	-	-	0.42	0.08	0.13	0.21	1.54	0.13	0.75	0.14	-	0.29	-
			-	0.04	0.75	3.88	0.67	0.04	-	0.42	0.29	0.08	0.29	1.00	-	0.13	-	-	0.29	-
	全国	第40週 第41週	0.09	0.20	1.01	3.16	0.46	0.86	0.05	0.59	0.02	0.37	0.38	1.60	0.02	0.63	0.01	0.08	1.26	0.03
			0.06	0.15	0.87	2.97	0.53	0.69	0.04	0.54	0.02	0.22	0.33	1.16	0.01	0.54	0.02	0.02	1.08	0.05

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

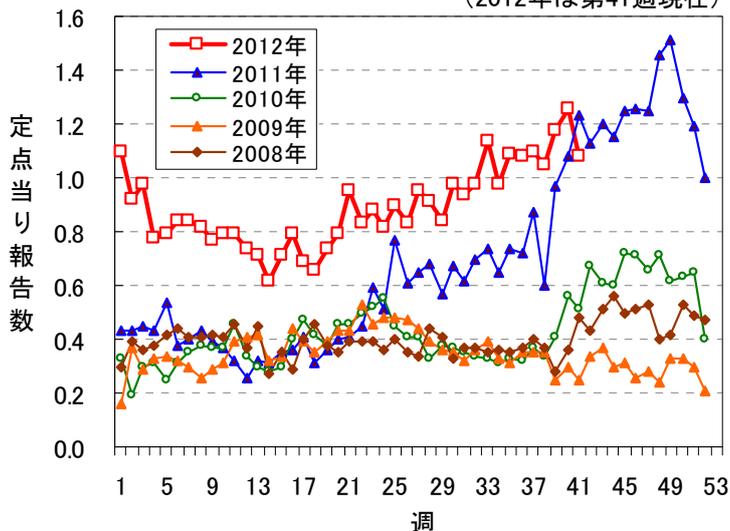
診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	発熱(38.4) 嘔吐	1	男	2012/09/12	咽頭拭い液	エコーウイルス6型
百日咳	上気道炎(気管支炎) 脱水症	0	女	2012/10/03	咽頭拭い液	百日咳菌
無菌性髄膜炎	発熱(39.0) 髄膜炎	7	女	2012/09/17	咽頭拭い液 糞便	アデノウイルス1型
その他の消化器疾患	血便	0	女	2012/08/19	糞便	パレコウイルス1型
その他の消化器疾患	胃腸炎 嘔吐	1	女	2012/08/31	糞便	パレコウイルス1型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】マイコプラズマ肺炎に注意しましょう

全国におけるマイコプラズマ肺炎発生状況

(2012年は第41週現在)



マイコプラズマ肺炎は、「肺炎マイコプラズマ」という細菌に感染することによって起こる感染症で、潜伏期間は2~3週間と、インフルエンザやRSウイルス感染症など他の呼吸器疾患と比べて長くなっています。

初期症状は発熱、全身倦怠、頭痛などで、咳は3~5日後から出るようになりますが、熱が下がった後も長く続く(3~4週間)のが特徴です。

昨年の第25週以降、全国的に例年と比較して多い状態が続いていますので注意が必要です。

初期症状はかぜなどを見分けが付きにくいですが、咳が長く続くようであれば、医療機関を受診することをお勧めします。

感染経路はかぜやインフルエンザと同じですので、普段から、手洗いを励行することが大切です。また、患者の咳から感染しますので、咳の症状がある場合には、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650

TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666

広島市西区商工センター四丁目1番2号

E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2012年第42週(10月15日~10月21日)